
渚の悲劇（聖騎士パロディ企画←そんなのない！）

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

渚の悲劇（聖騎士パロディ企画↑そんなのない！）

【Nコード】

N8910V

【作者名】

ごはんライス

【あらすじ】

聖騎士先生の「渚の出来事」「など」のパロディ作品です。聖騎士ファンは注意して読んでくださいまし。脳みそが弾けるよ。

作者注..

聖騎士先生の「渚の出来事」「など」を準拠としています。

「ノアちゃん。かき氷買ってきたにゃー」

変な猫が空を飛んでくる。羽をばたばたさせて。

暑いせいで幻覚を見てるのかと読者は思うかもしれないが、あいにく、小説だから見えるわけがない。

羽の生えた変な猫は、ノアとタカの前に下りた。

「ありがと。ジグムント」

「タカちゃんはいいいのかにゃ」

「オレは寝てるよ。だるい」

三人（二人と一匹？）は海水浴に来ていた。たくさんの人がいる。

騒がしくてまるで、1945年3月にあった、東京大空襲のようだ。

「ジグムント。あんたミュウちゃんは連れてこなくてよかったの」

「あいつかにゃ。あいつ不倫しやがったから、もう許せないのにゃ」

「ミュウちゃん、かわいいからねえ」

「だからって浮気はだめだにゃ」

変な男性が走ってくる。

「はあはあはあ。このあたりに、こういう女性来ませんでしたか」

男性は、写真を見せる。

「さあ。見てませんねえ」

「ちきしょう。あいつめ。絶対に浮気だ。浮気に違いない。さっき、男と腕組んでたもの。いったいどこに行きやがったんだ。人が多すぎてわかんない。自販機でジュース買ってるすきに。あつ。いた。あんな遠くに」

男性はまた走り始めた。

「ははは。暑いから。みんな頭おかしくなってるにゃ」

「ジグムント。悪口はだめよ。うふふ。でも確かにそうね」

「うるさいなあ二人とも。寝られないだろ」

「タカ。あんた。寝てばかりね」

遠くを見ると、ちょんまげ姿の若者が変な踊りをしてる。

「よっほっあらよっど。ほい」

「いいぞー殿様ー」

「さいこー」

暑いのでみんなバカばかりやってる。

「ほいっよっど。わっほい」

「あはははははは」

「うはははははは」

その殿様と呼ばれた若者の踊りがあまりに面白かったせいか、笑いが次々と伝染した。

「あははははははははははは」

「むははははははははははは」

「ぎやははははははははははは」

次々と担架で運ばれていく。

「よっほい。あっほい。よっよっ」

ジグムントとノアはそれを眺めながら、笑いをこらえるのに大変だった。

タカはすでにぐーぐー寝ている。ひさしがあるとはいえ、この暑さの中、よく眠れるものである。

遠くの方で、変なおっさんがちんこ丸出しでバイクを飛ばし、いろんな人がはねられていた。警官は海水浴場なのでパトカーが使えず、追いかけることができない。おっさんの名を他楽という。

ノアとジグムントは、海で泳ぐことにした。

しかし、たちの悪いことである。

すぐに、さめが現れた。

次々と海水浴客が食われていく。

「うぎゃあああああ」

「むぎゃあああああ」

大惨事である。

ジグムントは逃げようとしたら、羽を食われたので飛べず、そのままサメの餌食になった。

「ジグー……！！！」

ミュウはその頃、くしゃみをした。

「どうしたんだい。ミュウちゃん」

「風邪かなあ」

とある都会のホテルの一室。ミュウは、茶髪で色黒の男と全裸でベッドに並んでいた。

ノアも必死に泳いで逃げる。しかし、さめはしつこく追いかける。

「タカ。助けてー……」

寝ていたタカはぼっと目が覚めた。

「今、ノアの声が聞こえたような」

タカは海の方を見た。

「ねえ。あなた。海の方が騒がしいようですけど、何かあったんですか」

「それより、あなた、向こうで変なおっさんが、ちんこ丸出しでバイクに乗ってるそうですよ。おもしろそうだから、見にいきましょう」

「それはおもしろそう。うん。行きましょう」

タカは、起き上がって、海とは逆方向に走った。

「うぎゃあああああ。やられたあああああ」

ノアはさめにばりばり食われた。

内臓が飛び散り骨が砕け、海は赤く染まった。

暑い。非常に暑い。そんな日。

「よつと。ほい。あらよつと」

「あはははあはは」

「むははははは」

「なははははは」

担架で次々と運ばれる。

「はあはあはあ。また妻を見失った。トイレに行ってるすきに。おのれ。どこ行った。あいつ。ちきしょう。あついた。あんな遠くに。おのれ」

暑い。すごく暑い。暑いよう。

みなさん、ガリガリくんの食べ過ぎには注意しましょうねっ！！！！

おしまい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8910v/>

渚の悲劇（聖騎士パロディ企画←そんなのない！）

2011年10月9日17時36分発行